

## 令和4年度 第1回南砺市立病院運営改革委員会

日 時 令和4年10月3日（月） 19:00～20:30

場 所 南砺市地域包括ケアセンター 2階 多目的研修室

（ZOOM参加：市長、南砺市民病院、公立南砺中央病院、松倉委員、岡山委員）

出席者 委 員5名 中山繁實（委員長）、松本久介（副委員長）、長瀬啓介、山城清二、松倉知晴、村井眞須美、鍛冶本秀子、岡山容子

市当局14名 市長 田中幹夫

副市長 齊藤宗人

（地域包括医療ケア部）笠井部長

（南砺市民病院）清水院長、藤井事務局長、吉岡総務課長、柴田医事課長

（公立南砺中央病院）三浦院長、小又事務局長、南部総務課長、長谷川医事課長

（地域包括支援センター）竹内主幹

（医 療 課） 松岩医療課長、松本主幹、小原主任

傍聴者1名 医療法人社団 良俊会 ふくの若葉病院 浦辺事務長

欠席者 委 員1名 松 智彦

### 1 開会 19:00

### 2 開会の挨拶 中山委員長

### 3 委員の交替について

医療課長から、退職により本委員会委員を辞された田中委員の後任として、北陸病院看護部長の岡山容美（おかやまひろみ）氏をお迎えすることを改めて説明。

【中山委員長にて、新たな委員会体制について委員に承認の再確認】

【各委員からの質疑等は無く、拍手にて承認を確認】

### 4 協議事項

#### ① 南砺市立病院運営改革委員会委員について（資料1）

【質疑応答】無し

- ② 南砺市病院事業会計決算の概要について（資料2）
- ③ 公立病院改革プランの実施状況について（資料3-1、3-2）

協議事項②～③は関連性が高い案件につき、医療課、両病院総務課長からまとめて説明

【質疑応答】

委員	ポストコロナにおける病院運営の見通しは？
医療課長	コロナがまだ完全に収束しておらず、また、コロナ関連補助金が減額する中、今後とも厳しい病院運営が予見される。現在策定している病院将来ビジョンに基づき、市立2病院間での医療機能の分化・連携等を通じて病院運営の強化を図っていきたい。
委員	両病院病床稼働率が80%を割っている。DPC（診療群分類包括評価）の結果と7：1看護を加味しながら、患者さんの好循環が得られるようなベッド数を検討していく必要があるのではないか。

医療課長から事前収受した委員のご意見を紹介

事前意見	<p>① 地域医療構想を踏まえた役割の明確化</p> <p>南砺市の医療の将来を考えるならば、2次医療圏としての病院の役割を考えていく必要がある。産科が砺波に集約されたが、NICU（新生児集中治療室）が無いなど2次医療圏として小児科が十分ではないことから今後発展させるべき。</p> <p>② 事業規模・形態の見直し</p> <p>南砺市立病院は本来1つであるべきではないか。片方の病院は県立病院とするか、民間に払下げるなどし、医療機能を集約化すべき。</p> <p>③ 経営の効率化</p> <p>病院と診療所について、指揮系統が統一されておらず効率の良い病院運営ができていない。4診療所については病院の分院とし、指揮系統を明確化するべき。</p>
	事前意見に対する各委員からのコメント質疑等は特になし

① 南砺市立病院将来ビジョンについて

～ 実現可能性の高い再編案の選定について ～

「報告資料1」に基づき医療課長から説明

【質疑応答】

委員	<p>病院運営において資金はいわば血液のようなもの。赤字を出さない病院形態を検討することが必要。また、患者層も高齢化しており、平均在院日数が伸びている中で、市民病院の7：1看護をこのまま継続していけるのか、DPCデータの解析等が必要である。一方で、コストカットだけでは医療従事者のモチベーションも下がってしまうため、各々の病院の強みや特色を生かしながら、住民にとっても喜ばれる病院づくりを行っていくべき。</p>
委員	<p>資料によればR17までは医療需要はほぼ横ばいとなっている。こうした中で、今と変わらない病院運営を行った場合、なぜ10年弱で資金不足に陥ってしまうのか？</p>
医療課長	<p>ここ数年、両病院とも大きな設備投資等が生じていなかったが、今後は電気・給排水・空調等の設備関係の更新が生じてくる。また、病院建物についても順次耐用年数を迎えていき、直近では、著しい経年劣化が見られる市民病院南棟について、建替え時期が迫っている。こうした更新・建替えに係る経費を算出し、収支計画に落とし込んだところ、このままの経営状況が続いた場合、あと10年程度で資金不足に陥る結果となった。</p>
委員	<p>なぜ30年や40年先の見通しまでが必要なのか。経営強化プランのように5年程度の短期計画を積み重ねながら、将来の病院運営のあり方を検討していけばどうか。2病院の抜本的なあり方を検討する時期が早急すぎるように感じる。</p>
医療課長	<p>新たな病院建設には、国との協議や設計期間等が必要であり、市民病院新南棟の完成は早くも5年後（令和9年）と見込んでい</p> <p>る。さらに、病院建物を建て替える場合には莫大な建築コストが生じるため企業債を活用することとなるが、この企業債の償還期間は30年間となる。新たな病院を建てたはいいが、病院経営の悪化により企業債が返済できなくなったということがないよう、長期的な収支計画が必要となる。</p> <p>また、議論のタイミングについては、そうした建築コストや企業債の償還金を反映した収支計画において資金不足に陥る結果が出</p>

	<p>ていることから、2病院のあり方を検討する時期はまさに今であり、早急すぎるといったことはない。</p>
委員	<p>課題を認識せず場当たりの進まないためにも、こういった長期的計画は必要と考える。ただし、その収支予想が正しかったのかを定期的に検証し、適宜軌道修正していくというシステム構築が必要である。</p>
委員	<p>黒字化に向けたここ3～5年間の運営方針を教えていただきたい。</p>
市民病院 院長	<p>現在の市民病院の赤字については、新型コロナの影響が非常に大きい。よってコロナが収束していけば経営状況も回復していく。先ほど、DPC解析等による7：1看護やベッド数のあり方といった話が出たが、これについては病院内での経営管理会議において継続的に議論を深めている。医師数やベッド数は病院単体で決定することができない案件であるため、市全体で検討し経営強化に繋げていきたい。</p>
中央病院 院長	<p>現在、病院全体としての抜本的な経営強化対策といったものは特にないが、整形外科については近年、安定的な運営体制が築けており、これを維持したい。</p>
委員	<p>病院の将来ビジョンの策定とともに、介護需要のことも並行して検討していただきたい。特に、中央病院の介護療養型病床が令和5年度末でなくなるため、介護療養が必要な方の受け皿として介護医療院の創設も含め、市全体として検討いただきたい。この地域における介護需要は一旦大きく増加したのち、急激な減少に転じるため、民間主導による施設運営は困難だと思われる。</p>
南砺市地域包括支援センター主幹	<p>R4.9.22現在、南砺市民のうち、介護療養施設に入所している方は合計67名おられる。そのうち、介護療養施設に入所されている方が23名、介護医療院に入所されている方が44名となっている。介護医療院については、その入所期間にかかわらず本人に必要な介護看護が提供される施設となるが、現在、南砺市内に1箇所もないという現状から、施設ニーズは今後高まると考えている。</p>

--	--

② 家庭・地域医療センター 児童精神科・心療内科

～ 「こどものえがおクリニック」の受診状況について～

「報告資料2」に基づき医療課長から説明

【コメント・質疑等はなし】

6 事務連絡

医療課長から令和4年度第2回委員会を3月初旬に開催予定である旨案内

【コメント・質疑等はなし】

7 閉会の挨拶 田中市長

8 閉会